

実務経験のある教員等による授業科目

シラバス

ミュージシャン学科

ボーカル専攻

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー、及び国内外のショービジネスでの裏方を経験した実績をもとに指導する。		
前期		
到達目標		
音楽業界という業界への理解を深める		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	施設設備について	いろんな専攻が使用する施設・設備について見学を行い、その内容について概ねの理解を求めます。後に使用するスタジオ機材、学生が活用できるスタジオ・メディアレンタルについての説明も行います。
2	Vocal専攻カリキュラムについて	育成に関する研究が重ねられたカリキュラムを説明していきます。担当される講師の紹介も含め、ボーカル専攻全体の紹介となります。
3	技術系専攻等について	音楽をやっていく上で、色々なスタッフの協力を得ることになります。自分たちの専攻以外に、どのような内容のものがあるのかをしっかりと知ってもらう内容となります。
4	ミュージシャンについて①	「音楽がやりたい」という最初の気持ちを忘れず、音楽をしていく人として「ミュージシャン」という生き方を知ってもらいます。担当が、いろんなケースを紹介していきます。
5	ミュージシャンについて②	音楽を続けていくには、考え方や技術の向上が不可欠です。そのために「音楽第一主義」という考え方を知ってもらいます。失敗、挫折、復活の繰り返しで先が見えていきます。
6	ミュージシャンについて③	音楽活動をしていく過程において、色々なものに遭遇していきます。人の繋がり、楽器との出会い、バンド活動スタート、解散、技術スタッフとの関連、プロモートや制作関連の人たちとの関わりについて知ってもらいます。
7	ライブ・イベント	学校の中でも開催されるライブイベント。さて自分たちが、出演者になったらどうということをしていくのかを勉強します。募集・応募・出演依頼・提出資料・プロフィール・セットリスト・当日進行確認・リハ・本番等の流れを知りましょう。
8	音楽について①	現在、J-POP等でヒットしているものを取り上げてみます。みんなの好きそうなボーカリストやバンド、5年前と比べてどう変化しているのかを考えてみます。
9	音楽について②	人気ある夏フェス等で活躍する3ピースバンドをピックアップします。楽曲の良さ?パフォーマンス?いろんな角度でみんなが感じるものを発表しましょう。
10	音楽について③	アンサンブル等で取り上げる楽曲について、その歴史背景に触れていきます。その影響を受ける日本の曲等が参考になれば、より理解が深まります。
11	音楽業界のしくみ	第一段階として、基本的なプロダクション、レコード会社、音楽出版から成り立つ音楽業界の仕組みを勉強します。
12	音楽業界の歴史	音楽業界のかたちは、最初にだれかが作ったものではなく、アーティストたちが自分たちの活動をどうしていくのか、どう知らせていくのか、どう食べていくのかということから発生。それが、後に仕事として大きく組織化されていったものです。
13	音楽業界の変化	皆さんは、音楽や音楽情報をどう知り得ていますか?そして、「音楽」をどうにかたちで買っていますか?やはり、メディアから考えると変化しないといけませんね。
14	ライブハウス	だれもが判りやすい「ライブハウス」でのライブイベントの勉強をします。対バン、チケット、セットリスト、ステージ進行、MC、音楽以外にも、いろんな要素が出てきます。
15	前期試験	1~14までのペーパーテスト
16	テスト返却と解説	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学内施設&設備、カリキュラム、他専攻との関わりやその内容の理解を深め、ミュージシャンとして雑学的に知ってもらいたい内容等も勉強します。実技で学習する楽曲に対しての対比や同類の紹介、音楽の考え方を吸収します。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
音楽活動と音楽そのものへの理解を深める	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	前期総括内容
1	前期1~14までの復習をもう一度行います。
2	楽器について①
2	身近なLM楽器。Guitar、Bass、Drum、Keyboardの内容を学びます。
3	楽器について②
3	個人持ちの楽器ですが、その事情はいろいろあります。ライブハウスにアンプがあったり、ギターさんやベースは荷物が多かったり…。簡単に楽器弾きの人たちもことを勉強しましょう。
4	コンサートPAについて
4	PA(パブリックアドレス)、SR(サウンドリフォーメント)という内容や、常設のライブハウス、トラックでの搬入作業を伴うコンサート等、実際の音響関連設備等について学ぶ。
5	レコーディングについて
5	ここでは、一般的なレコーディング作業の流れを解説します。データ、リズム録り、オーバーダブ、ボーカル録り、コーラスetc等、人やタイミング、時間によって作業手順も変わります。
6	イベント関連
6	「イベント」というカテゴリーについて勉強します。コンサートやライブは、音楽を中心としたイベントですが、世の中には、この言葉で沢山の催事が繰り返されます。
7	集客・動員について
7	ライブ活動を中心に考えると早いうちに理解が必要になる項目です。営業的な観点にたったライブ活動は、デビューに近づける第一歩でもあります。
8	音楽について④
8	アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
9	音楽について⑤
9	アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
10	音楽について⑥
10	アンサンブルや実技において、いろんな楽曲に触れ、いろんなリズムやハーモニーの体験がある時期になります。その中から楽曲をピックアップして、その時代背景や同じようにヒットしたアーティストを知ってもらい探究心を育てます。
11	宣伝・PR・媒体について
11	一般的なプロモーション手法について勉強します。フライヤー・ポスター・雑誌掲載等、視覚効果的なものや耳から入ってくるもの、またはSNS等も大きな媒体効果を発揮していきます。
12	音源制作について
12	自分個人またはバンドで音源を作っていきます。自分たちのプロモーションや販売も視野に入れて、まずは第一弾を作るために、どうしたらいいのかを学びます。
13	著作権①
13	まずは、簡単に作詞・作曲等の印税となる内容や、アーティストの権利を学びます。
14	後期試験
14	1~13までのペーパーテスト
15	テスト返却と解説
15	

授業科目		授業時数
音楽理論		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
大野 正人 プロミュージシャンとして長年活動している経験から単なる知識の理論だけでなく、歌唱や創作に向けた実践的な活用法を教授		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●基礎楽典の習得。 ●調合の理解 コードの基礎。 ●ダイアトニックコードの理解。 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	<ガイダンス> 音楽を演奏、創作、発展させるために、従来の基準的な音楽のルールを学びます。「音楽理論」の必要性を理解してもらうような授業展開を考えています。	
2	ドレミ音階の説明、ドレミとアルファベット 五線紙上に現れる音名を学びます。イタリア/フランスの読み方からスタート、日本・米/英語・ドイツを学びます。米/英語表現のCDEFGABを使用していきます。	
3	五線と音階/楽譜の記号について 実際の五線紙上の音階を学び、その楽曲の規則性を表す音部記号・調性記号・拍子記号等の表現について理解していきます。	
4	音譜のデュレーション 色んな音符の長さを学びます。いろんな拍子記号の中で、リズムの変化が表されていますので、音符形式、強弱表現等を確認します。	
5	リズムトレーニング(その1) 8分音符を使った、色々なリズムの形状を覚えます。実際に8分音符や休符が混じったものをトレーニングします。	
6	リズムトレーニング(その2) 8分音符を中心としたシンコペーションを含むリズムを練習します。	
7	音程のレッスン(その1) 五線紙に表現された音程を実際にギターやピアノで弾いて、その音の隔たりが持つ「音程」のイメージを体感していきます。	
8	音程のレッスン(その2) 五線紙に表現された単音をギターやピアノで弾き、3度や5度の音程を自分の声で歌います。その響きや高さのイメージを付けていきます。	
9	コード(その1)3コード 3コード(例:C、F、G7)や、起承転結となるI-IV-V-Iの流れをハーモニーとして理解します。	
10	コード(その2)ダイアトニックコード 調性からの成り立ちとしてダイアトニックコードを説明していきます。	
11	コード(その3)ダイアトニックコードの連鎖 調性内に位置する単純なメロディーにいろんなコード付けを考えてみます。これは、与えられたコードを繋ぐことによって楽曲のハーモニーが動いていることを理解してもらいます。	
12	コード(その4)特殊なコード ブルースコードといわれるIV7やトリック7thを持つ独特な響きを理解してもらいます。	
13	スケール(その1)ペンタトニックスケール 機能的な動きを直接与える音を使用せずに配列させることができるペンタトニックスケールを学びます。ダイアトニックペンタトニック	
14	スケール(その2)ペンタトニックスケール 配列上に既にブルース的イメージの音を含む(マイナー)ペンタトニックスケールを理解します。	
15	前期試験 第1週～第14週の内容から出題	
16	答案用紙返却と解説	

授業の方法	
講義 演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音楽の基礎理論と譜面の読み方・書き方を学ぶ事により総合的な音楽知識を習得する授業です。また、音感、リズム感などのミュージシャンとして必須の能力を身につけていきます。また音楽の理論を理解する為の下準備としてコード楽器を弾く事を進ませつつ、基本的な理論を指導する。<実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:モダンミュージックセオリー/モダンワークブック	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●テンションコードの理解。 ●コードの転調。 ●聞き取る能力の習得。 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	音程(その1)ソルフェージュ ボカリストとして、ハモる部分でも大切なものです。最初は3度、5度を中心に聴き取りをしていきます。
2	音程(その2)ソルフェージュ 2週目は、他の音程の聴き取り練習も行います。
3	コード(その5)度数でアナライズ 例題曲Aのコード進行に対して度数(ディグリー)を記述できるように学んでいきます。
4	コード(その6)度数でアナライズ 例題曲Bのコード進行を原曲Keyとして、そのKeyの度数(ディグリー)とダイアトニックコードを理解します。
5	リズムトレーニング(その3) 16分音符の符割を使用したリズムを学んでいきます。
6	リズムトレーニング(その4) 16分音符に休符や簡単なシンコペーションを入れて込んで練習します。
7	コード(その6)転調 度数表現のコード進行を、自分が決めたKeyでのコード進行に書き直す作業を行う。また、メロディラインの移調も行ってみる。
8	コード(その7)tension コード進行に出てくる9度以上のテンションノートについての意味と響きを体感する。今後の参考となるような内容まで。
9	リズムトレーニング(その5) 3/4拍子や3連(12ビート)に関するリズムのトレーニング
10	リズムトレーニング(その6) 少し跳ねるビートに関する知識習得や練習を行う。2拍3連、5連(奇数拍)に関するリズムの取り方。
11	フレーズの聞き取りと採譜(その1) 実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙に書いてみる。※コピー作業の一部
12	フレーズの聞き取りと採譜(その2) 実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙に書いてみる。※コピー作業の一部
13	テストの出題範囲の打ち出しと復習 音程の響き、リズム譜の読み方、ディグリーによるコード表現または、自分が使用するKeyへの流用方法等を再度確認する。
14	後期試験 後期第1週～第13週の内容を中心に出題
15	答案用紙返却と解説

授業科目		授業時数
音楽史		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー経験から、学生に音楽のすばらしさを伝えてくれる。		
前期		
到達目標		
幅広いポップスの知識を得る ロックンロール登場以前 ロックンロール / ビートルズの成功と影響		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	オリエンテーション 歴史認識の基本点をおさえながら、1年間、なにを目的として当授業を展開していくかを指導。	
2	ロックンロール以前① エジソンによる蓄音機の発明から始まる「レコード(記録)・メディア」の発生。初期のアメリカン・ポップス(大衆音楽)を通して音楽産業の萌芽時代。	
3	ロックンロール以前② アメリカを発信源として、レコードにより世界中をゆるやかに伝播していったポップスの源流である「C&W、BLUES、JAZZ」を学ぶ。	
4	ロックンロール以前③ ロックンロールの登場は、アメリカの音楽がレコード産業として成長し、拡大してゆく歴史的な分岐点である。ハリウッドを中心としたスタンダード・ポップスを取り上げ、時代の背景を学ぶ。	
5	ロックンロール登場 アメリカの都市構造の変化により黒人が増え、彼らの音楽であるブルースも活発になり、多くの白人が聴く事となる。レイス・ミュージックから初期R&B、ロックンロール登場について。	
6	ロックンロールのアーティストたち① その初期には、10代の大人社会に対する反抗の象徴となる音楽とされていたロックンロール。白人ティーンエイジャーの圧倒的な支持を集めることになる。当時の黒人の「ビート・サウンド」について。	
7	ロックンロールのアーティストたち② 初期ロックンロールの様々なヒット曲を取り上げ、それぞれのアーティストの背景について。	
8	ロックンロールのアーティストたち③ 現在、「オールディーズ」と呼ばれている後期ロックンロール時代のさまざまなヒット曲。アイドル・タレント(サウンド)を演出する裏方であるプロデューサー、特に「ウォール・オブ・サウンド」のフィル・スベクターについて。	
9	ロックンロールの時代 1950年代のアメリカは、歴史上かつてない豊かな社会であった。また、初期ロックンロールの普及にはラジオ放送の影響が大きい。当時のラジオDJの果たした役割、その衰退について。	
10	フォークVSアイドル・ミュージック 1960年初頭、アメリカでブームが起こり、世界中の若者の支持を得ることになるフォーク・ソング。「プロテスト・ソング」とも呼ばれたメッセージ性の高いフォークの歴史背景。	
11	ビートルズ前夜 1960年初頭、イギリス産のロックンロール(ビートルズ)が生まれることになる。ビートルズのバンド結成を通じ、当時のイギリスのポップ・ミュージックの歴史背景。	
12	ビートルズ登場 1960年代初め、イギリスのリバプールで結成されたビートルズ。メンバー結成後の活動、ドイツ、ハンブルグでの苦労時代、メジャー・デビュー、その後のイギリスでの成功について。	
13	ビートルズの成功 1962年、イギリスを完全制覇したビートルズ。その後、アメリカ進出を果たし、チャート記録を塗り替えることになる。アメリカでの成功の背景について。	
14	ビートルズ、米上陸、解散 世界中の若者達の支持を得たビートルズ成功の裏側、ファッションやイメージ戦略に長けたマネージャーの役割など。また大成功のその後。巨大なスタジアム・コンサートなどに疲れ、レコーディング・バンド化したビートルズ。さまざまなサウンド革命を成し遂げるが、バンドとしては活動を停止すること。	
15	前期試験	
16	前期の復習及びまとめ	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
幅広いポップスの知識を得る ハードロック・プログレッシブロック・グラムロック 巨大化するロックビジネス / パンク、レゲエ / ファンク・ヒップホップ	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	サウンド革命 1967年、ビートルズ「サーージェントペパーズ・(略)」により成し遂げられたサウンド革命により、ポップ・サウンドの方向性が全方位に拡大に向かう。
2	ソウル・ミュージック 60年代、アメリカ黒人社会の地位向上とともに、より洗練された新しい黒人サウンド「ソウル・ミュージック」が生まれることになる。
3	ロックの多様化① ギターサウンド ハード・ロックの台頭とともに、その中心楽器であるエレクトリック・ギターのサウンドに注目が集まることになった。さらに60年代初頭のシティ・ブルース(米)が再評価される。
4	ロックの多様化② サイケデリック アメリカの大量消費社会への批判からか、ヒッピー・ムーヴメントが発生。また、ドラッグが若者社会に入り込み、その経験から生み出される幻想的なロック・サウンドも生まれた。
5	ロックの多様化③ グラム・ロック 1971年頃、ロンドンで派手な衣装でステージに立つグラム・ロックが話題になる。グラム・ロックを代表するアーティスト、デビット・ボウイについて。
6	ロックの多様化④ サウンドの冒険 バンドごとに独自性を持たすためか、各種のサウンド実験がポップに持ち込まれた。「プログレッシブ・ロック/アート・ロック」と呼ばれた実験的バンドの紹介。
7	ロックの拡大① ウッドストック 1969年夏、全米各地で巨大なロック・フェスティバルが開催された。なかでも、「ウッド・ストック」は後に映画として記録され、巨大化するロック・エイジのシンボルとなる。
8	ロックの拡大② ヒーローの死 ロックが巨大化し産業化していくなか、ジミ・ヘンドリクス、ジャニス・ジョプリン、ジム・モリソンなどの才能あるアーティストが亡くなっていく。
9	ロックの拡大③ マーケットの拡大 1970年代、英米のポップ・マーケットは拡大していく一方、音楽業界のみならず一般社会をも巻き込んだ「パンク・ロック」が発生。パンクは後に「レゲエ」を巻き込み、「ニューウェイブ」として定着する。
10	ファンク 1970年代、ロックと共に変化し、多様化し、複雑化した黒人音楽。16ビートのリズムのうねりを利用し、各種のダンス・ミュージックが発生した。さらに黒人音楽の当時の歴史背景について学ぶ。
11	ワールド・ポップス 1980年代、ポップ・ミュージックの世界もマルチ・メディア(映像)化した時代となる。「MTV」を取り上げ、MTVを通じてスーパー・スターになったマイケル・ジャクソンを紹介する。
12	ラップ&クラヴ・ミュージック まとも ヒップ・ポップ・カルチャーの中から生まれた「ラップ」、クラヴ・ミュージックからの「ハウス」を紹介し、ほぼ10年おきに発生する新しいムーヴメント(サウンド)が、巨大な産業システムに吸収されていく過程を学ぶ。
13	日本のポップス① 戦前・戦後・歌謡曲 レコード・システムの輸入、日本独自の「歌謡曲」の発生、初期のヒット曲を紹介し、日本のポップスの源流を学ぶ。
14	後期試験
15	年間まとめ

授業科目		授業時数
音響基礎		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
岩田 晶 多岐に渡る音楽家としての活動経験から、ミュージシャンに必要な基礎的な音響知識を教授していきます。		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ● 会場の種類と把握 ● ステージの構造・名称の理解 ● 専門用語の理解 ● コンサート・ライブの流れの理解 ● モニタリング知識の理解 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ライブ活動① ライブ活動を行う上での基本的なワークフローを解説していきます。また、プロモーション活動についての概要を解説していきます。	
2	ライブ活動② ステージにかかわるスタッフの種類やその業務内容について解説を行います。	
3	ライブ活動③ ライブ会場での入りから撤収まで、1日の流れを様々な立場から解説を行います。	
4	ライブ活動④ 関西圏に置いてのライブにおいて、ライブハウスに出演するまでの大まかな流れを解説していきます。	
5	資料① ライブ時に必要な資料、またステージの用語について、使用場面などとともに解説を行います。	
6	資料② セッティング図の書き方、また、セッリスト、タイムテーブル、マイキング、D.Iのステージプロット上での書き方をレクチャーしていきます。	
7	資料③ 前回の授業を参考にし、実際のバンドを想定した、ステージプロットやセッリストを作成していきます。	
8	ライブ活動⑤ リハーサル時の各パートにおけるモニタリングやリハーサル時における注意を学んでいきます。	
9	ライブ活動⑥ ライブ等で楽器を演奏する際のアンプとモニターの位置や注意事項について学んでいきます。	
10	ライブ活動⑦ バンドでツアーを行うに当たっての注意事項を例を用いて解説していきます。	
11	ライブ活動⑧ プロフィール、ディスコグラフィ、パイオグラフィ、アー写などのプロモーション資料を作成するにあたっての注意事項を解説していきます。	
12	ライブ活動⑨ ステージ上での様々な知識をプレイヤーが認識しておく意味やメリットを解説していきます。	
13	資料④ 今まで学んできたものを振り返り、ステージ進行・制作資料の作成を実際に行っていきます。	
14	資料⑤ 前期ステージ実習に向けてのステージプロットの作成やその他の資料作成を行います。	
15	前期試験	
16	前期まとめ / 振り返り 前期のまとめとして、ライブ活動と制作資料についての復習または補足を行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
演奏することにおいての楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ● アナログ機器に関する基礎知識の習得 ● レコーディングに関する知識を習得 ● デジタル機器に関する基礎知識の習得 ● CD制作、流通、プロモーションに関する基礎知識を習得 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	音源制作① デモテープを作成するにあたり、楽曲作成の基本的な、手順を理解していきます。
2	音源制作② 音源制作に置いて必要なプリプロ、その役割、必要性について学んでいきます。
3	音源制作③ プリプロ制作の基本的なワークフローを各手順ごとに解説していきます。
4	音源制作④ プリプロ録音する為の流れを理解していく上で、各手順ごとの概要を説明していきます。
5	レコーディング① レコーディングを行うに当たっての基本的なワークフローまたその過程の解説を行います。
6	レコーディング② レコーディングをする際の各スタッフの必要性とその役割について理解していきます。
7	レコーディング③ レコーディングをする為のスタジオの環境について事例を交えて解説を行います。
8	レコーディング④ 今まで学んだレコーディングについての細かなワークフローを復習していき、その補足を行っていきます。
9	CDが出来るまで① CDを作成するにあたって、ジャケット、歌詞、クレジットなど、アートワークを構成するものについての解説を行います。
10	CDが出来るまで② プロモーションをしていく上での様々なプロモーションツールと、その特徴について解説していきます。
11	CDが出来るまで③ CDリリースの流れについての流通の仕組みとともに解説を行います。
12	CDが出来るまで④ WEBを活用してのプロモーションの種類について、各サービスの活用方法について解説していきます。
13	CDが出来るまで⑤ WEBを活用して音源の配信などの流通の仕組みや方法についての解説を行います。
14	後期試験
15	まとめ 一年間を通して学んだことの復習をしていき、またそれに対する補足を行っていきます。

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前期		
到達目標		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		実施内容
授業項目		
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	全体構想 過去のイベントを参考に、「イベント」といわれる催事についての解説を行い、各学科が習得している内容を生かすヒントを与えていく。そして、大きな仕組みの理解をしてもらう。
2	イベント準備 今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるものの仕組みや学生全体で担当する具体的なものを紹介していく。
3	参加内容 自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらう。
4	制作① 具体的な計画術を学んでいく。具体的に作る作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。
5	制作② 担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。
6	制作③ 広範囲の内容にも理解を示していく。実際には、どれだけ集客を望めたのか結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。
7	実施運営① 具体的な用意(仕込み/準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。
8	実施運営② 実施運営を行い、最終的なものとしての撤収作業。準備時間よりも早く終わるものだが、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるものとなる。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
業界研究		24
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		

前期
到達目標
目指す業界の基本的な仕事内容を理解していく。他の実習授業との兼ね合いも関連していくことを十分に理解して学内外のイベントや実習に触れていく。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他

授業計画		実施内容
授業項目		
1	新歓コンサート (4)	入学してすぐに1学年上の学生が担当する演奏・技術・制作を含めた総合的な内容のコンサートイベントを見学。特に自分たちが目指す内容の仕事を意識したかたちで体感してもらう。
2	芸術鑑賞 (4)	プロの現場の見学するために、チケット販売をされている内容の劇場・コンサート会場・ライブハウス等を利用した鑑賞。各学科により、その内容を年度毎に吟味して実施する。
3	ステージ実習 (4)	学内ホールを使用した前期演奏アンサンブルの発表授業。16週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

授業の方法
講義・演習・実験・実技・ 実習
授業概要
演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>
使用教材:

後期
到達目標
学内の基本的な実習内容を理解した上で、他の学科との関係性を考える。自分自身が携わる部分を意識出来るようにしてもらい、その業界での仕事スタイルや慣習を学ぶ。

評価方法
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他

授業計画		実施内容
授業項目		
1	ステージ実習 (4)	学内ホールを使用した後期演奏アンサンブルの発表授業。約15週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
2	レコーディング実習 (8)	自分の演奏した楽曲を実際に録音していく授業。実際の現場で行われるレコーディング工程を理解しながら、リズム録り、オーバーダブ、Vo録り等の流れを体験していく。自分の演奏を客観的に聴く機会でもある。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業科目		授業時数
歌唱技術		248
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
薄田 麻子 小、中、高での音楽教育から大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとに確かな技術を教授する。		
前期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス&自己紹介 これから一緒に勉強していく仲間にも、判ってもらえる自己紹介をします。ステージに立つものとして、「人前で話すという行為」はとても大切なポイントです。	
2	個々の選択曲プレゼン カラオケデータの扱いも兼ねて、自分の歌い方がわかる選曲をします。※毎回、トレーニング・発声・課題曲は、授業で行います。	
3	発声理論① 声帯等の構造と発声のメカニズムを学び、胸式呼吸と腹式呼吸の違いも理解していきます。	
4	メンテナンスとウォームアップ ウォームアップの方法論を説明、実際に行ってみる。歌うための体幹を強化、ストレッチを理解していきます。	
5	楽器(弾き語り) 自分が歌うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。	
6	課題曲 ●邦楽ストレート8ビートMajorを基準に選曲をします。	
7	リズムについて① 8/16ビートのリズムを理解するため、両手で膝を叩いてリズムを出していきます。左右がズレないよう工夫します。	
8	譜面について 実際のCメロ譜を見ながら、楽曲を追いかけしていきます。逆に自分の課題曲を「ハコ譜」に戻してみます。	
9	課題曲チェック ●邦楽16ビートを基準に選曲をします。	
10	発声理論② 「身体が楽器」というボーカリスト。発声時の基本的な姿勢の確認をしながら姿勢の矯正等を行います。より声の出やすいポジションを意識しましょう。	
11	楽器(弾き語り) 自分の伴奏ができるように、ギター、ピアノを勉強します。安定してコード進行を弾けるようにしましょう。	
12	音感トレーニング 音感のトレーニングのための音程差を理解するためのエチュードを行います。	
13	課題曲分析 選んだ課題曲の分析を行います。自分の知っている知識で、曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。	
14	課題曲チェック 【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。	
15	前期試験 【本番】	
16	FOLLOW 前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。	

授業の方法	
講義・演習・実験・ 実技 ・実習	
授業概要	
歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	後期ガイダンス&自己紹介 再度、入学時と同じように自己紹介を行います。ボーカリストにとってMCは、絶対的に必要な内容となりますので、自分の強みのパターンを作っていきます。
2	オーディション対策 オーディションに対する対策を考えていきます。個人のキャラクターを優先してステージを作りたいと考えています。
3	プロフィール作成 この部分は、人生を左右する部分にもなります。写真撮影、プロフィール、テキスト等を含めて、自己の印象値をUPできることを考えていきます。※学校が作成する部分もあります。
4	課題曲 ●邦楽J=180~200程度の8ビート曲を基準に選曲をします。
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
6	オリジナル曲 指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しで歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。
7	ピッチ・リズム 高さが合っているピッチ、基準ピッチまでの早さやベンド、ビブラートの基準位置等を理論的に理解します。リズムの感じ方のタイプを説明します。
8	発声理論③ 「マイク」に乗る／乗らない、声の大きさや圧力等、アマチュアとプロの違いをしっかりと理解しましょう。
9	課題曲 ●ゆっくりとしたテンポの邦楽Minor曲(バラード)を選曲をします。これは、自分が伴奏できるレベルのものを選んでください。
10	リズムについて② リズムを声に出して、しっかり出す訓練をします。出音がハッキリできるよう何度も練習をします。
11	楽器(弾き語り)&MC 弾き語り曲
12	指定曲 ●邦楽アカベラ課題曲 ※KEYは、自分で選択してください。
13	課題曲 ●アタック音もしくはシャウト音がある曲を選曲してください。
14	後期試験 【本番】時間をかけて各自課題曲と指定曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。今回は、1曲が弾き語り曲となります。
15	FOLLOW 総括として、個人の課題をそれぞれに話しますので、2年次は、そのポイントを克服できるように頑張ってください。

授業科目		授業時数
アンサンブル		124

学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻

担当講師(プロフィール)	
大野 正人 プロミュージシャンとして長年活動している経験からボーカル学生と4リズムパートの合奏精度を高めていく方法を教えてくれる。	

前期	
到達目標	
概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	

授業計画		実施内容
1	ガイダンス、バンド編成の各楽器の特性の解説、課題曲アンサンブル指導についての心構え	・教室設備について解説 ・楽譜作成について ・バンド編成の各楽器の特性の解説
2	課題曲アンサンブル指導	メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲A 最初の楽曲は、無理なく音程を意識して演奏できるシンプルなコード進行の楽曲内容のものを扱います。
3		
4		
5	課題曲アンサンブル指導	マイナー・メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲B ハーモニーの流れが判りやすく、演奏できる楽曲です。ボーカリストとして、少しフレーズを合わせる部分が登場します。
6		
7		
8	課題曲アンサンブル指導	マイナーキー / 8ビート ミディアム&アップテンポ 課題曲C 一部16ビートを感じさせるフレーズが入りますが基本は8ビート。少しテンポ感のある楽曲が導入されていきます。
9		
10		
11	課題曲アンサンブル指導	マイナー・メジャーキー / 8ビート アップテンポ 課題曲D 生演奏をバックに歌うことにも慣れ、そろそろテクニク的なものが要求される時期になってきます。8ビートですが、16分音符の多様される楽曲になってきます。
12		
13		
14	課題曲アンサンブル指導	マイナー・メジャーキー / 8&16ビートアップテンポ 課題曲E 演奏的には、ほぼ16ビートを感じて演奏する楽曲の登場です。ストレートロックだけでは無く、ロック表現ですが、コードの流れ、キメポイント等が多様されていきます。
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技 実習	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マネー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	

後期	
到達目標	
概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	

授業計画		実施内容
1	課題曲アンサンブル指導	メジャーキー / 8及び16ビート スローテンポ 課題曲F ハーモニー進行が、よりスムーズなイメージになり、多少の転調等の工夫がされている楽曲になります。優しいビート感を表現する内容が盛り込まれていますので、ボーカリストとしての声の「いい響き」が要求されます。
2		
3		
4	課題曲アンサンブル指導	メジャーキー / シャッフルビート スローテンポ 課題曲G ロッカバラード3連の楽曲が選択されています。シャッフルビート、12ビート等、8ビートとは少し違うアクセント感やリズムのキメ等を勉強します。
5		
6		
7	課題曲アンサンブル指導	マイナーキー / 8ビート ミディアム 課題曲H 8ビート/ミディアム、音数も少なくシンプルですが、リズムに対するメロディの対比感が素晴らしく効果的なアレンジがされている楽曲を体感して貰います。
8		
9		
10	課題曲アンサンブル指導	マイナー・メジャーキー / シャッフル及び8ビート ミディアム 課題曲I マイナーブルースのケーデンスを使用したロックの名曲や1コーラス16小節で独特の世界観をイメージさせる曲等を使って他のジャンルを感じさせます。またアドリブを勉強するためにも優れたナンバー。
11		
12		
13	課題曲アンサンブル指導	メジャーキー / 8及びハーフタイムシャッフル ミディアム 課題曲J 邦楽の名曲を2曲。ソウルフルなビートを使用したものやディズニー的なアレンジの楽曲に触れ、それらのルーツに関心を持ってもらうと音楽感性が広がる。
14		
15		

授業科目		授業時数
コーラス		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
<p>深見 かよ バックコーラスなどの自身の活動、大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとにハーモニーの構築や重要性を伝えていく。</p>		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●バックコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 ●楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する ●様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得 		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス 年間の授業の流れ、課題曲となる楽曲の紹介。プログラムを始める前の発声について	
2	レベルチェック 各自のレベルチェック、今後の方向性、セールスポイント、ウィークポイントの確認、目標の設定をディスカッションしていきます。	
3	レベルチェック 各自のレベルチェック、今後の方向性、セールスポイント、ウィークポイントの確認、目標の設定をディスカッションしていきます。	
4	コーラスとは バックコーラス、合唱、ゴスペル、アカペラ、音源を聞きながら解説していきます。	
5	和音の解説 3度、5度のハーモニーをとっていきます。それにあたっての、ポイントやコツ、注意する点などを解説していきます。	
6	和音の解説 3度、5度のハーモニーをとっていきます。それにあたっての、ポイントやコツ、注意する点などを解説していきます。	
7	2声合唱(課題曲①) 2声合唱を行う楽曲についてのガイダンスを行い、そしてパート決めも行っていきます。	
8	2声合唱(課題曲①) 課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対する歌唱指導も合わせて行っていきます。	
9	2声合唱(課題曲①) 課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対する歌唱指導も合わせて行っていきます。	
10	課題曲② 課題曲の楽曲についてのガイダンスを行い、それぞれのパートを決めて練習をしていきます。	
11	課題曲② 課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対する歌唱指導も合わせて行っていきます。	
12	課題曲② 課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対する歌唱指導も合わせて行っていきます。	
13	課題曲② 課題曲のチェックを行っていきます。また、それに対する歌唱指導も合わせて行っていきます。	
14	プレテスト テストの前段階として、テスト内容と同等のものを使いプレテストを行います。	
15	テスト	
16	まとめ 前期のまとめとして、前期で学んだ内容の復習をし、またそれについての補足を行っていきます。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
<p>コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞</p>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●バックコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 ●楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する ●様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲③ 課題曲を決め、それについての楽曲ガイダンスを行います。そして、ソロパートやハーモニーパートをそれぞれ決めていきます。
2	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
3	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
4	課題曲③ 課題曲のソロパートについて、個々に指導を行い、注意すべきポイントなどを明確にしていきます。
5	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、音の構成などのガイダンスを行い、実際に練習をしていきます。
6	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、パートごとに気を付けるべき点などを明確にしていきます。
7	課題曲③ 課題曲のハーモニーについて、パートごとに気を付けるべき点などを明確にしていきます。
8	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについてのそれぞれのパートの役割についてのガイダンスを行います。
9	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについて、各パートの注意すべき点などの指導を行います。
10	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートについて、各パートの注意すべき点などの指導を行います。
11	課題曲③ 課題曲のクワイヤーパートのチェックを行い、パートそれぞれの課題を洗い出します。
12	課題曲③ 課題曲の全体のチェックを行い、ソロ、ハーモニー、クワイヤーのパートのバランスを整えていきます。
13	プレテスト テストの前段階として、テスト内容と同等のものを使いプレテストを行います。
14	テスト
15	まとめ 年間のまとめとして、年間を通して学んだ内容の復習をし、またそれについての補足を行っていきます。

授業科目		授業時数
フィジカルコントロール		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
田頭 沙希 幼少期からの豊富な芸能、舞台経験を活かした技術やセルフトレーニングの方法、様々なパフォーマンスを指導する。		

前期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力強化 ●基本エクササイズ・ストレッチ・筋肉トレーニング・アップダウン等リズム取り・アイソレーションを使ったボディコントロール ●ステージング、パフォーマンス 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1	ガイダンス	自己紹介を行い、導入として、簡単なストレッチ、インナーマッスルトレーニング説明などを行います。	
2	ストレッチ1	上半身集中の筋トレを行います。特に腹筋、背筋を曲に合わせてトレーニングをしていきます。	
3	ストレッチ2	下半身集中の筋トレを行います。腕立て伏せ3パターンをレクチャーしそれぞれに鍛えられる部位を説明していきます。	
4	ストレッチ3	全身の筋トレを行います。また前回レクチャーした腕立て伏せをそれぞれのパターン実践していきます。	
5	アイソレーション1	頭や首を中心としたアイソレーションを解説し行っていきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
6	アイソレーション2	胸、肩を中心としたアイソレーションを解説し行っていきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
7	アイソレーション3	お腹、腰を中心としたアイソレーションを解説し行っていきます。また、体幹トレーニングを行っていき、その際の注意点を細かく解説していきます。	
8	リズムトレーニング1	ダウン&アップリズムの基本をレクチャーしていきダウンを中心としたリズムのトレーニングを行っていきます。	
9	リズムトレーニング2	ダウン&アップリズムの基本をレクチャーしていきアップを中心としたリズムのトレーニングを行っていきます。	
10	ステップ	曲に合わせてダウン&アップのステップをレクチャーしていき、その際の注意点を解説していきます。	
11	表現力	課題曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行っていきます。	
12	表現力	課題曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行っていきます。	
13	課題曲発表	グループごとに課題曲に合わせ、振りを発表し、それに対する、アドバイスや、課題を指摘し解説していきます。	
14	表現力	自由曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行っていきます。	
15	表現力	自由曲を使用し、これまで学んだアイソレーションやステップを組み込んで振付を行っていきます。	
16	総合、発表	これまで学んだことを発表していき、今後の課題点や注意点を指摘し、解説を行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	

後期	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力強化 ●基本エクササイズ・ストレッチ・筋肉トレーニング・アップダウン等リズム取り・アイソレーションを使ったボディコントロール ●ステージング、パフォーマンス 	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1	ガイダンス	前期で行った、ストレッチ、トレーニング、アイソレーション、ステップを復習していき、また後期で行う内容についてのガイダンスも行います。	
2	個人曲パフォーマンスチェック	導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。	
3	個人曲パフォーマンスチェック	導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。	
4	個人曲パフォーマンスチェック	導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。	
5	個人曲パフォーマンスチェック	導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。	
6	個人曲パフォーマンスチェック	導入部分で、ストレッチトレーニングを行い、その後個人の自由曲に対する、パフォーマンスのチェックを行っていきます。	
7	課題曲	課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に手の動きに重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。	
8	課題曲	課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に足の動きに重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。	
9	課題曲	課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、特に表現力に重点を置いた指導を行います。また、体幹がぶれないよう指導も行います。	
10	課題曲	課題曲を使用し、今まで行ってきた内容を振り返り、振付全体の指導を行います。また、体幹がぶれないよう注意していきます。	
11	課題曲発表	4週にわたって行ってきた、課題曲についてグループごとの発表を行い、それぞれの課題を洗い出していきます。	
12	総合トレーニング1、自由曲	これまで行ったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対するの振付、指導を行っていきます。	
13	総合トレーニング2、自由曲	これまで行ったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対するの振付、指導を行っていきます。	
14	総合トレーニング3、自由曲	これまで行ったトレーニングの振り返りを行います。また、自由曲を選びそれに対するの振付、指導を行っていきます。	
15	一年まとめ、トレーニング、総評	1年行ってきた内容について、重要な点をまとめ振り返りを行っていきます。	

授業科目		授業時数
ソングライティング		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
小村 雅弘 ミュージシャン、音楽クリエイターとして長年の活動経験を持つ。その経験から幅広い音楽制作とPC活用を学生に指導している。		
前期		
到達目標		
PCを使って自身の音楽活動を表現できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	PCの基本操作	音楽制作からデザイン、書類作りまでパソコンを活用できることは必須となっています。まずは電源・マウス・キーボードの接続。
2	Webの構成・メール・アカウント管理	インターネットはもはやなくてはならないネットワーク。情報やデータのやり取りにはメールサービスが用いられます。
3	ネットリテラシー概論①	SNSについて音楽活動を行っているとき日常とは切り離して考えていかなくてはならないことが出てきます。全世界に向けて発信してしまうSNSというものを再認識しましょう。
4	ネットリテラシー概論②	著作権と著作権について制作物を取り扱う際に必ずついてまわる著作権。同様に著作物には著作権があり、どちらも重要です。
5	音楽ファイルの種類と取り扱い	圧縮技術の発達により、音声ファイルには様々なフォーマットが存在します。それぞれの特徴を理解して目的に合わせた管理を行えるようにします。
6	実技① メールに音楽ファイルを添付して送る	ビジネスに用いるメールソフトの機能を使って音声ファイルを相手に送信します。
7	実技② 音楽ファイルをストリーミング再生で相手に送信する	主に音声や動画などのサイズの大きいマルチメディアファイルを転送・再生するダウンロード方式を学びます。
8	OSについて	コンピューターを動かすためのソフトウェア(オペレーティングシステム)について理解していきます。
9	パソコンのスペック	作業領域を左右するメモリの種類とスペック、またデータを保存するスペースとなるHDDとSSDの違いについて理解していきます。
10	アプリケーション使用方法ワード	代表的なワープロソフトを使ってビジネス文章を作成します。レイアウトの調整なども含め使用方法を学んでいきます。
11	アプリケーション使用方法エクセル	代表的な表計算ソフトの使用法を理解していきます。関数を用いた計算方法なども習得していきます。
12	アプリケーション使用方法DAW	MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方法を学ぶ①
13	アプリケーション使用方法DAW	MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方法を学ぶ②
14	前期試験対策	前期内容から課題作成に向けたまとめを行います
15	前期試験	第1週～13週の内容から課題作成
16	前期試験返却及びまとめ	まとめ

授業の方法	
講義 (演習) 実験・実技・実習	
授業概要	
様々なジャンルの楽曲のコード理論、進行、メロディ及び歌詞の構成などを分析、研究、理解し、オリジナル楽曲の作成に対する様々なアプローチを学び、完成させていきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:ヘッドフォン	
後期	
到達目標	
PCを使って、オリジナル作品を制作できる	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	アプリケーション使用方法DAW MIDIの打ち込みやオーディオの録音ができるデジタル・オーディオ・ワークステーションの操作方法を学ぶ③
2	ボイスメモの取り扱いと注意点 手軽に録音できるボイスメモを利用する際の活用法。録音だけでなく「編集」「復元」「転送(共有)」など便利な機能がありますが、後に聞く際にわかりやすくするコツを憶えておきます。
3	テンポと拍子・メロディを理解する 1分間に何拍取るかを示すテンポと音の強弱を持つ拍子はメロディを考える際に大きく影響しています。
4	リズム① 強弱をつけた規則的に鳴る音のかたまり(パターン)を色々と試していきます。8ビート・16ビートを中心に学びます。
5	リズム② 音の強弱に加えて長さや音程・音色によってもアクセントを表現していきます。ハネ・シャッフル系の変則的なリズムの学習を行います。
6	実技① メロディのある楽曲制作 楽曲制作にはメロディのない「BGM」の制作がありますが、ミュージシャンにとって欠かせない「歌」に注視した楽曲制作の手法を学びます。
7	実技② メロディのある楽曲制作 レットルの概念とメロディの変化。Aメロ・Bメロ・サビといった展開方法を考えていきます。
8	DAWを使用した楽曲制作の方法1 DAWの特性を活かし、リアルタイムではない全体の流れを確認しながらの楽曲制作を行います。
9	和声を理解する メロディに対してコードを当てはめていきます。DAWを使うと様々なパターンを確認していく事が可能です。トライアド、7thまでの4声までのコードの理解をしていきます。
10	DAWを使用した楽曲制作の方法2 DAWの特性を活かし、リアルタイムではない全体の流れを確認しながらの楽曲制作を行います。レコーディングの手法も同時に学びます。
11	作詞 漠然と思いついた言葉を並べるのではなく他者が「共感」できる歌詞の作成を意識した作詞の手法を学びます。
12	作詞 「物語」「ファンタジー」など、実際には存在しない世界や一般的な主張ではないテーマを題材に、他社への「共感」を生む作詞の手法を学びます。
13	後期試験対策 前期内容と後期内容から課題作成に向けたまとめを行います
14	後期試験 楽曲を完成させて時間内に提出
15	後期試験返却及び一年間のまとめ まとめ

授業科目		授業時数
音楽業界概論		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
松原 啓之 バンド活動、ボーカルコーチ、大手外資系CDショップでのバイヤー、及び国内外のショービジネスでの裏方を経験した実績をもとに指導する。		
前期		
到達目標		
音楽活動への理解を深める/音源制作とその収益ビジネスの知識を得る		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	2年のボーカル専攻カリキュラムについて	
2	オーディション・コンテスト	
3	ライブブッキングについて	
4	バンドの仕組み	
5	ボーカルとしての職業	
6	デビュー①[プロフィール編]	
7	デビュー②[MC編]	
8	メジャーとインディーズ	
9	CD制作の仕組み①	
10	CD制作の仕組み②	
11	音楽配信の仕組み①	
12	音楽配信の仕組み②	
13	いろいろな収益構造	
14	アーティストに関わる契約	
15	前期試験	
16	テスト返却と解説	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
権利と収益の知識を得る/創作活動について自身の考えを持つ	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	著作権②
2	著作権③
3	アーティストの収入
4	音楽ビジネス全般についてのお金の流れと収益構造
5	海外の音楽業界事情①
6	海外の音楽業界事情②
7	作曲
8	作詞
9	アレンジメント
10	オリジナリティ
11	プレゼンテーション1週目
12	プレゼンテーション2週目
13	これからの音楽業界
14	後期試験
15	テスト返却と解説

1	著作権①で学んだ内容を振り返っていきます。作詞・作曲等の印税、アレンジの買取り、著名スタジオミュージシャンの印税契約、アーティストの権利も含め、著作権で守られる内容を勉強します。
2	特許申請されるものの例も含め、音楽以外にも、演出、振付け、図面、建物、キャラクター等も含め知っておきたいと思えます。
3	「デビューしました。」実際の収入は…。これは、とても気になる内容です。作詞作曲をするアーティストとバンドメンバーではかなりの差額が出てしまいます。
4	アーティストの原盤制作から派生するツアー&コンサート・CDセールス、ファンクラブ・グッズ販売、出演依頼、掲載も含めた音楽ビジネス全般として捉えてみます。
5	その時期の一般的なUSAやUKの音楽事情を解説します。
6	一昔前のJ-POP路線と似ているが、お洒落な感覚とビジュアル重視として大人気のK-POP事情も取り上げます。
7	具体的にいろんな作り方があるのですが、楽器を持って鼻息交じりのアナログな方法やデジタルの偶然性も兼ね備えたものを紹介。音楽の道に進んだ人間は、必ず曲を作ってほしいです。
8	作詞の極意は、作曲より多種多様だと考え、その創作のひとつを一緒にやってみましょう。
9	実際にアレンジは、各楽器の特性を知ることやモチーフとなるフレーズ、リフ等が浮かぶこと、ハーモニーのイメージをかたちにできること等いろいろな要素が必要になります。
10	自分にあると信じたい「オリジナリティ」の勉強です。意外に音楽内容では無い可能性もありますよ。見極めていけると嬉しいですね。
11	2週に渡って、「自分の音楽像」を自分なりにまとめ、自分を売り出す考え方や説明を検討してください。発表する場面を作っていきます。
12	↓
13	皆さんが進む音楽業界ですが、また5年もすれば、流行りもシステムも変化していきます。ただ、過去の流行を辿ると、この先が見えるかも知れません。
14	1~13ペーパーテスト

授業科目		授業時数
音楽史		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
二階堂 茂 音楽ライターとして多方面で活躍。あらゆる音楽事情に精通し、リアルタイムな経験から学生に音楽のすばらしさを伝えてくれる。		
前期		
到達目標		
過去の音楽業界と今の音楽ビジネスの違いを考察できる		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音楽ビジネスとは 「音楽ビジネス」と言われる内容を理解、これからの新しい音楽ビジネスの可能性を探ります。	
2	音楽ビジネスのシステム 基本は、原盤制作、音楽出版、プロダクションから派生するビジネスですが、CD販売だけではなく広く広がっています。	
3	インターネット普及 今はインターネットと音楽ビジネスは密接なかたちで出来上がっています。色々な映像例を観て理解してもらいます。	
4	音楽シーンの変化 個人に音楽が届くかたちは、物品からデータに変化しました。CD販売は様々な販促システムが考案され、そのシステムに乗れなければ販売という目的は厳しいかたちになります。	
5	音楽ビジネスの未来 昭和の音楽ビジネス、平成に大きく変わり、これからの時代にどんな変化が訪れるのかを考えます。	
6	メジャーとインディーズ① 最初に使われたメジャーとインディーズの意味合いを理解していきましょう。	
7	メジャーとインディーズ② 現在の若者がこのメジャーとインディーズという言葉はどう受け止めているのかを検証します。	
8	制作経費 音楽ビジネスといわれる大きなアーティストに関するツアーやレコーディング、または色々な広告宣伝に関する経費について学びます。	
9	企業と個人事務所 巨大プロダクションと個人事務所の違いを理解していきましょう。	
10	音楽の商品化 音楽というものが、どの範囲まで商品として考えられるのか？考えられているのかを、皆さんの周りのもので考えてみたいと思います。	
11	セルフ・プロモーション① セルフ・プロモーションという自身がアピールするための媒体は、SNS等も含め、大きく広がっています。	
12	セルフ・プロモーション② セルフ・プロモーションの必要性は、「身近さ」という人間的なものをダイレクトに感じるさせるものでしょうか…。昔からラジオのパーソナリティになるミュージシャンは売れるもんです。	
13	セルフ・プロモーション③ セルフ・プロモーションの方法として、写真、テキスト、自筆、映像、音楽等を使った直接的に感じられるものを研究します。	
14	前期試験対策 1～13の内容を復習します。	
15	前期試験	
16	前期まとめ 試験返却/前期の復習及びまとめ	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちやジャンルの派生、楽曲やアーティストに関する知識等を研究していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
SNSに関する理解と世界に向けた音楽ビジネスの知識	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	SNS 携帯社会になって急速な普及がみられるSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)。分類は難しいのですが、Mixi、Facebook、Instagram、Twitter、Line等、その特徴を知りましょう。
2	商品売上に繋がる販促や宣伝は、大手企業も着手します。音楽ビジネス関連もこんな感じのものがあります。
3	SNSを使ったプロモーションとして、話題になっているものを勉強していきます。皆さんの知っているものも発表しましょう。
4	アーティストイメージ 音楽内容だけではなく、映像としてのセルフ・プロモーション等はとても重要性の高い項目です。スポーツ・料理または意外な趣味等、大がかりではない身近さも考えましょう。
5	YouTube 音楽プロモーションは、音楽性自体が映像を含むものとして考えられるものも少なくありません。アニメや世界観ある別世界を表現するものも多いです。
6	音源販売について 音源を販売する方法は、これからも変わっていくこととなります。現状の物品販売、データ販売も含め、その種類を整理していきましょう。
7	「CD Baby」他
8	「iTune Store」「Gumroad」他
9	著作権 音楽の著作権について一般的な権利を学びます。
10	アレンジ等に関する著作権(2次創作)について、ゲーム会社等の例を考えて見ましょう。
11	新しい著作権のシステムも考えられていますので、それを理解していきます。
12	今後の音楽ビジネス 音楽ビジネスの可能性「Pinterest」「iTunes Match」他
13	後期試験対策 後期1～12の内容を復習します。
14	後期試験
15	年間まとめ 一年間の復習及びまとめ

授業科目		授業時数
音響基礎		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
綿貫 正顕 メジャーな作曲家・演奏家としての経験から、ポピュラー楽器を中心とした楽器知識を学生に教授する。		
前期		
到達目標		
それぞれの楽器の細部について、種類や特性などの専門的な知識を身につけます		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1 デジタル①	DTMに使用する音源のベーシックは、歴史ある楽器の音色を参考にしているため、元々の色々な楽器を知る。また、様々な考え方があがるが、DTM(打ち込み)というものを考える機会を作る。	
2 デジタル②	オーディオインターフェイスについて学び、MIDIインターフェイスの頃からの問題点となるレイテンシーを解消するモニター方法を学ぶ。	
3 デジタル③	レコーディング現場やライブ現場での同期についての状況や対処を学びます。	
4 ポピュラー楽器①	クラシックギター(ガットギター)は、柔らかいナイロン弦を使用し、指で弾くことが多いものです。クラシック、スパニッシュ、ボサノバ等、いろんな音楽に使用されます。	
5 ポピュラー楽器②	スチール弦を使用しているアコースティックギターは、ガットギターに比べると硬質なイメージの音になります。バンドアンサンブル等でも有効なリズムが出せます。	
6 ポピュラー楽器③	ドラムの基本3点(HH、BD、SN)が織りなすビート感を学びます。色々な聞こえ方があるので紹介していきます。※記譜法	
7 ポピュラー楽器④	Fill inやアタックに使われるタム類、シンバルの音色を理解します。プレイヤーによって、全く考え方が違うことも知ってもらいます。	
8 ポピュラー楽器⑤	エレキギターが楽曲中に担当するソロやカッティング等の役割からみた解説をします。	
9 ポピュラー楽器⑥	エレキギターの音について歪み、クリアを中心に、エフェクト等も紹介していきます。本当にいろんなスタイルや音色があるので研究します。	
10 ポピュラー楽器⑦	ベースの奏法(指弾き、ピック弾き、チョップ等)による音の違いを学びます。	
11 ポピュラー楽器⑧	ベースが弾くベースラインで音楽が変化していくと言っても過言ではありません。その重要度が高い例を知りましょう。	
12 ポピュラー楽器⑨	楽曲における鍵盤楽器の役割を理解していきます。和声やリズムのトータルを認識できる楽器です。	
13 ポピュラー楽器⑩	鍵盤楽器の種類と歴史について学習します。	
14 前期復習	デジタル/ポピュラー楽器(LM)は、日々進歩していきます。その方向性等も勉強していきます。	
15 前期試験	前期授業内容から出題	
16 FOLLOW	4リズムに関する補足を行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
演奏することにおいての楽器や音響機材、ライブ・コンサートを知るために実践的なかたちで理解を深めます。また、ステージ進行・制作資料などの学習も行います。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
それぞれの楽器の細部について、種類や特性などの専門的な知識を身につけます	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1 弦楽器と擦弦楽器①	歴史ある弦楽器のヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの音域や特性等を学びます。
2 弦楽器と擦弦楽器②	ヴァイオリン等に使用する弓の構造や特徴について理解を深めていきます。
3 ギター/アンプの種類	特にロック等のポピュラー音楽で使用されるギターの種類やその増幅手段となるアンプ類についての知識を紹介します。
4 ギター/ベースの構造	ギター/ベースの構造上の内容について触れていきます。各部分の名称(ネック、フレット等)からサウンド的に変革があった内容等を学びます。
5 ギター/ベースサウンド	これらの楽器は、プレイヤーによって使い方や音色の開発等で幅広いジャンルの広がりに繋がりました。少し参考例を紹介します。
6 知られている弦楽器	マンドリンや大ヒットしているウクレレについて、そのスタイルや音楽を学びます。
7 マイクについて	実演音源の入口となるダイナミックマイク / コンデンサマイク等の種類や特性を知ってもらいます。
8 ピックアップについて	音楽としての振動を捉えるマグネティック / ピエゾ / トリガーについての考え方や構造を学びます。
9 息を使う楽器①	身近な楽器としてのリコーダーやハーモニカ、オカリナ、ピアナカ。その中でも知ってほしい管楽器としてのリコーダーやフルートの構造を理解します。
10 息を使う楽器②	木管楽器 & 金管楽器の分別と種類について解説、開管楽器と閉管楽器という分類、マウスピースやリードについても学びます。
11 エフェクター①	ロックの世界で生まれ育った歪み系のエフェクターについて解説していきます。
12 エフェクター②	音量ある音楽を支えるコンプレッサーの働きについて学習します。
13 後期の復習	弦楽器と擦弦楽器、マイク、ピックアップ、息を使う楽器、エフェクター等についての質疑応答
14 後期試験	後期授業内容から出題
15 まとめ	試験返却 及び一年間のまとめ

授業科目		授業時数
イベント制作		32
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		

前期	
到達目標	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	

後期	
到達目標	
学校全体の行事として実施、各学科の特徴を生かしたかたちで成果発表を盛り込む。学年及び各学科・専攻により制作レベルには違いはあるが、学校全体としての大きな目標を理解して進める。2年次は、後輩となる1年の指導もイベント制作の重要項目となる。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1	全体構想	2年目の「イベント」として昨年の反省を踏まえ、各学科が習得している内容を生かせる工夫をしていく。また、全体の動きを理解して、色んな担当を任せていく。	
2	イベント準備	今回のイベント趣旨やその目的等をわかりやすく解説。公募されるもの内容、学生全体で担当する具体的なものに参加していく。	
3	参加内容	自分たちの参加内容をアイデア出し、企画・プランニングしていく。学科・専攻で参加するものやグループ・個人で出演やコンテンツ参加等、いろんな関わり方を知ってもらおう。	
4	制作①	具体的な計画術を学んでいく。具体的に作る作業内容、そこから導くチェックリスト、制作スケジュールや予算等を明確にしていく。	
5	制作②	担当別にグループや個人に依頼して割り振る考え方を持っていく。そのための期限等は、その次のスケジュールに影響を及ぼすことも学んでいく。	
6	制作③	広報的な内容にも理解を示していく。実際には、どれだけ集客を望めたのか結果として出てくるものになるので、その集計やアンケート回収などの知識を学ぶ。	
7	実施運営①	具体的な用意(仕込み/準備等)を行う。担当箇所の運営にあたる人のスケジュールを作成。その担当者のチェック項目を明確にするもの等を揃えて実施運営としていく。また簡単なルール・マニュアル作りも大切な要素となる。	
8	実施運営②	実施運営を行い、最後の撤収作業まで責任を持って行う。その後、廃棄・保存・記録等の作業が次年度に関係してくるので、申し送り等の作業をしっかり行う。	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

授業科目		授業時数
業界研究		24
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
杉山 徹 ギターリスト、アーティストプロデューサーとしてレコーディング、ライブ演奏、イベント制作、写真撮影、映像編集など様々な経験を生かし学生の指導や育成をする。		
前期		
到達目標		
目指す業界の幅広い仕事内容を知ってもらう。習得した知識や実技内容との関連も考えながら、業界との接点を感じてもらう。		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	レコーディング実習 (8) レコーディング工程となるリズム録り、オーバーダブ、Vo録り等のテイクを重ねながら、技術サイドの思考も理解していく。また、最終的なTDの工程も学ぶ。あくまでも演奏者の立場で、知識を深めていく授業。	
2	ステージ実習 (4) 学内ホールを使用した前期演奏アンサンブルの発表授業。16週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。	
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
演奏系、技術系、総合学科の学生たちが日常学んでいる内容を業界関係者の協力や外部施設利用を含んだかたちで発表していきます。<実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
学内外での実習内容を消化しながら、他の学科との仕事の位置関係を学んで行く。自分自身が携わる部分、また協力できる部分等を意識してもらい、創り上げていく流れを体感、理解するようにする。	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	芸術鑑賞 (4) プロの現場の見学するために、チケット販売をされている内容の劇場・コンサート会場・ライブハウス等を利用した鑑賞。各学科により、その内容を年度毎に吟味して実施する。
2	ステージ実習 (4) 学内ホールを使用した後期演奏アンサンブルの発表授業。約15週で学んだ中からの選曲、または特別指定曲等を盛り込んで行われるステージ演奏。
3	卒業コンサート (4) 学内で行う学生たちの主導で行うイベントの最終形。出演・技術/制作/運営等のスタッフやオーディエンス等も含め、その一体感のものを学んでもらう内容。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業科目		授業時数
歌唱技術		248
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
薄田 麻子 小、中、高での音楽教育から大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとに確かな技術を教授する。		
前期		
到達目標		
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	フィジカル&指定曲	体幹トレーニング/ストレッチを個々の課題として行う。 ※ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択。
2	選択曲プレゼン&MC	カラオケデータから自分らしいと感じる歌い方ができる選曲をします。個性を感じさせてくれるものが、芽生えてくれることを期待します。
3	発声理論④	積み上げてきた「発声」に対して、よりレベルをUPした内容を混ぜていきます。
4	楽器(弾き語り)	指定するコード進行を弾きながら、歌詞無しで歌を唄います。ハミングレベルですが、ハーブ等を使用しても結構です。思いつきで歌詞を入れても構いません。少しでも譜面に残しましょう。
5	オリジナル曲	先週の内容を、発表します。簡単なものでも歌詞があれば、より判りやすいものになると思います。
6	課題曲	1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲してください。 ※1、2年演奏アンサンブルで採用している曲を推奨してください。
7	歌唱スタイル	沢山のボーカリストの中で、学生に良い影響を与えられると感じるボーカリストを紹介する。できれば、学生の雰囲気と似ている、参考になると思われるアーティストが良い。
8	歌唱チェック	現状で、それぞれの歌い方をチェックして、留意点を伝えていきます。良い内容は伸ばす、悪い癖は、これ以上にならない工夫を心がけます。
9	課題曲チェック	1970～1990年代の名曲とされる洋楽を1曲選曲の審査をしていきます。結果的に良いボーカリストは、経験のために演奏系アンサンブルの方へ推薦する可能性があります。
10	発声理論⑤	ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールを学びます。
11	楽器(弾き語り)	ミディアムテンポの洋楽3曲、自分が演奏できそうな1曲を選択して 実際に演奏することを具体化していきます。
12	音感トレーニング	音程差を理解するためのエチュードを充分に行っていきます。
13	課題曲分析	選んだ課題曲の分析を行います。曲構成・歌詞・コード進行・メロディ等の理解度を確認するための分析を発表します。
14	課題曲チェック	【リハーサル】時間をかけて、各自の前期課題曲のうち、2曲を10分ステージとしてMCを入れて発表します。
15	前期試験	【本番】
16	FOLLOW	前期の状況を確認して後期に対しての課題を申し渡します。

授業の方法	
講義・演習・実験・ 実技 ・実習	
授業概要	
歌唱技術を基礎から習得する内容です。正確な音程やリズム感を身につけ、様々な音楽スタイルの理解やニーズに対応できる歌唱表現技術を習得していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
歌唱技術の向上 概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ユニット練習① クラスのメンバーでユニットを組み、自由曲1曲を必ず、自分たちの演奏でハモリを入れて披露します。
2	ユニット練習② 練習
3	ユニット【本番】 自由曲1曲ですが、即席ユニットで、発表します。
4	課題曲 3連、12ビートの曲を基準に選曲します。
5	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
6	オリジナル曲 オリジナル曲を創るようになっています。メロ先行、ハコ譜コード先行、歌詞先行、打ち込み先行等、どのようなかたちでも結構ですので「オリジナル」に拘ります。
7	ピッチ・リズム もう一度、ピッチやリズムに関しての時間をかけたチェックポイントとして授業を行います。
8	発声理論⑥ ファルセット、ミドルボイス等、声帯のコントロールをチェックしていきます。
9	課題曲 4ビートやブルース、ラテン、ボサノバ等のリズムを持つ楽曲を選曲します。
10	オリジナル曲 何かのかたちで「譜面」を用意します。担当講師が伴奏してくれるので一旦、唄ってみましょう。
11	楽器(弾き語り) 自分が唄うために自分の伴奏をします。そのために、ギターもしくは、ピアノを勉強、安定してコード進行を弾けるようにします。
12	指定曲 アカペラ課題曲 今回は、同級生とハモります。
13	課題曲 自由選択 後期試験で歌う曲をカラオケでプレゼンしてください。
14	後期試験 【本番】自由曲とオリジナル曲の2曲を10分のステージとしてMCを入れて発表します。できれば、オリジナル曲は、弾き語りであれば良いと考えます。
15	FOLLOW 総括として、個人のポイントを話していきます。今後においても努力できるようにしてほしいです。

授業科目		授業時数
アンサンブル		124
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
林 幸司 ギターリスト、バンドプロデューサーとしての豊富なバックバンド経験を 生かし、ボーカリストにアンサンブルのポイントを理解させていきます。		
前期		
到達目標		
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	■課題曲アンサンブル指導 フリティッシュロックとウエストコースト 課題曲K-①② 2年生の最初は、ストレートな誰もが聴いたことのあるフリ ティッシュハードロックとウエストコーストロックの代表的な曲を 取り上げます。1年次に習得した技術でしっかり演奏できる内 容になっています。	
2		
3		
4	課題曲アンサンブル指導 ソウルフル&ファンキー 課題曲L-①② 音楽理論で学ぶ I M7-VIm7-II m7-V7のケーデンスが、その まま楽曲に使われ、親しみやすいきれいなメロディで構成され ているソウル系の代表楽曲と切り込んだギターミュートが印象 的な16ビートフィールのファンキーな楽曲を演奏します。今ま でとは違い、少し脱力した楽器演奏が必要とされます。	
5		
6		
7	課題曲アンサンブル指導 アコースティックな響き打ち込み的な楽曲の対応 課題曲M-①② ここではアコースティックな楽曲や打ち込み的なループフレー ズを使用した楽曲を、普通の4リズムで演奏してみます。やは り、楽曲のイメージを崩すこと無く再現できるような音色や代理 パートをやってみます。	
8		
9		
10	課題曲アンサンブル指導 通常の8ビート、16ビートとは少し違うリズムパターンを使用し た曲 課題曲N-①② ドラムがハイハットで基本リズムを刻むのではなく、リズム隊が それぞれのコンビネーションでリフになっているパターンの曲 を勉強します。これは、バンドアレンジに変化をつける為にも 知ってもらいたい内容です。そして、音符を目一杯に伸ばして 軽いタッチで演奏するという楽曲も体験します。	
11		
12		
13	課題曲アンサンブル指導 1曲の中に色々な場面が展開される曲 課題曲O-①② 各リハーサルマークごとに曲のイメージがめまぐるしく変化し て組曲のような展開を持つ曲を演奏してみよう。ビートもス トレート、バウンスと入替部分があります。3~4曲分のネタを 持っていますが、惜しげも無く上手くまとられています。もう 一つは、馴染みやすいロックっぽいベースのリフを使用した POPなモータウンチューンです。この曲の展開も流れるような 美しさを持っています。	
14		
15		
16	前期まとめ 前期課題曲からランダムに選曲して演奏する。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・ 実習	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メ ロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マ ナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
他パートの演奏の把握 アレンジへの対応 楽曲に合った音量、音色の表現 アイコンタクトの実施	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・ その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導 AOR楽曲と歌伴奏 課題曲P-①② 今までの楽曲とは少し違うAORの名曲に挑戦します。ブル ース形式を使っていますが、多様な楽曲に仕上がっている という事実も紹介します。そして、ブルースっぽいですが、ブ ルース形式に基づく進行では無い3連ロックバラードもやっ てみましょう。
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導 休符に存在するビート感と曲の途中でビートが変わる楽曲 課題曲Q-①② ギターのカットングで始まるAORの名曲。音が鳴っていない 部分の休符に存在するビートを感じてもらいます。また、 $\text{♩} = 136$ 程度の16ビートが途中で4ビートに変わります。その同じ表 示テンポで違うジャンルをビートを感じてもらおう楽曲をチョイス しました。
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導 2ビート系とエッジの立った16ビート 課題曲R-①② 2/2ラテン的な要素を持つ楽曲を練習します。今までにない全 楽器ユニゾンもあり、フレーズも少し馴染みがないものになり ます。2曲目は、指弾きファンクベースのフレーズが先行してい くエッジの立った名曲を練習します。同じ16分音符の音価があ るのにも関わらず、表現の違いを体感してもらえようしま す。
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導 16ビートジャズ(バウンス)でタイプの違う2曲 課題曲S-①② ドラムの16ビートジャズに全ての楽器が同じリフで乗っかっ てくるようなAORの名曲です。2曲目も16ビートジャズハネ ものユニゾン曲です。バシッと合わなくても何かカッコいいお祭 り的な要素を持つ曲。アンサンブル楽器の音色が全く違うの ですが、同じ雰囲気のリフを使用しています。
11	
12	後期ステージ実習リハーサル 後期最終に行われるステージ実習(CAT HALL)に向けて選曲 を行い、ステージ発表の内容を完成させていく。
13	
14	
15	1年間総括 1年間の課題曲からランダムに選曲して演奏をする。

授業科目		授業時数
コーラス		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
<p>深見 かよ バックコーラスなどの自身の活動、大手プロダクションでの豊富な指導経験をもとにハーモニーの構築や重要性を伝えていく。</p>		
前期		
到達目標		
<p>バックコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する 様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得</p>		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス① 課題曲の楽曲ガイダンス 複数人のソロパートとコーラス部分で構成された楽曲の進行を確認。半期をかけてレパートリーとしての完成を目指す	
2	ガイダンス② コーラスパートのガイダンス	
3	ガイダンス③ ソロパート、ハーモニーパートのガイダンス	
4	パート分け 各自の歌唱部分とコーラスパートの担当分け	
5	コーラス① コーラスパート指導① 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
6	コーラス② コーラスパート指導② 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
7	コーラス③ コーラスパート指導③ 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
8	ソロ&ハーモニー① ソロパート、ハーモニーパート指導① 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
9	ソロ&ハーモニー② ソロパート、ハーモニーパート指導② 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
10	ソロ&ハーモニー③ ソロパート、ハーモニーパート指導③ 音程、リズム、声量をチェックしながら演習	
11	全体チェック① 1曲を通してリハーサル。それぞれの課題となる部分をクリアし完成度を高める。	
12	全体チェック② リハーサル2週目	
13	全体チェック③ リハーサル3週目。最終のチェック。	
14	試験対策 楽曲における自分の役割が出来ているかを確認	
15	試験 各自の完成度、および全体の完成度	
16	まとめ 半期を振り返り、それぞれの課題ポイントを確認します	

授業の方法	
講義・演習・実験・ 実技 ・実習	
授業概要	
<p>コーラスワークによるハーモニーの習得の授業です。ハーモニーの構築や重要性を体感、バックコーラスから合唱まで幅広いスタイルについて学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞</p>	
使用教材:	
後期	
到達目標	
<p>バックコーラス、メロディーに付帯するコーラス等様々なスタイルのコーラスの歌唱 楽譜、コードネームを読み取る事を通して各コードやサウンドを理解、会得する 様々なスタイルの楽曲を通して、ハーモニー、コーラススタイルの習得</p>	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ガイダンス④ デュオ、トリオ、ユニット、バックコーラス形態でのワークショップ、メンバー、楽曲決め
2	バックコーラス① バックコーラス形態でのワークショップ①
3	バックコーラス② バックコーラス形態でのワークショップ②
4	デュオ① デュオ形態でのワークショップ①
5	デュオ② デュオ形態でのワークショップ②
6	デュオ③ デュオ形態でのワークショップ③
7	トリオ① トリオ形態でのワークショップ①
8	トリオ② トリオ形態でのワークショップ②
9	トリオ③ トリオ形態でのワークショップ③
10	ユニット① ユニット形態でのワークショップ①
11	ユニット② ユニット形態でのワークショップ②
12	ユニット③ ユニット形態でのワークショップ③
13	試験対策 楽曲における自分の役割が出来ているかを確認
14	試験 各自の完成度、および全体の完成度
15	まとめ 半期を振り返り、それぞれの課題ポイントを確認します

授業科目		授業時数
フィジカルコントロール		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
田頭 沙希 幼少期からの豊富な芸能、舞台経験を活かした技術やセルフトレーニングの方法、様々なパフォーマンスを指導する。		
前期		
到達目標		
体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力		
評価方法		
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス① 簡単なストレッチ、インナーマッスルトレーニング説明など	
2	柔軟性と筋力① ストレッチ1(上半身集中)、筋トレ(腹筋、背筋を曲に合わせて)	
3	柔軟性と筋力② ストレッチ2(下半身集中)、筋トレ、腕立て伏せ3パターン	
4	柔軟性と筋力③ ストレッチ3(全身)、筋トレ、腕立て伏せ	
5	体幹① アイソレーション1(頭、首集中)、体幹A	
6	体幹② アイソレーション2(胸、肩集中)、体幹B	
7	体幹③ アイソレーション3(お腹、腰集中)、体幹C	
8	リズム感① リズムトレーニング1(down集中)、理解	
9	リズム感② リズムトレーニング2(up集中)、理解	
10	リズム感③ ステップ(曲に合わせて、up downなど)	
11	課題曲① 表現力(課題曲)	
12	課題曲② ストレッチ、トレーニング、課題曲	
13	課題曲③ 課題曲発表(グループごと)	
14	自由曲① 表現力(自由曲)グループごと強化	
15	自由曲② アドバイス、グループごと強化	
16	まとめ 総合、発表	

授業の方法	
講義・演習・実験・ 実技 ・実習	
授業概要	
ボーカリストにおける体幹強化と柔軟性を中心に指導。発声時における声帯と身体のコントロール、ステージで必要となる様々なパフォーマンスを学びます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
体幹強化・フィジカル向上・リズム体感力	
評価方法	
筆記試験・ 実技試験 ・実習評価・課題評価・小テスト・その他	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	ガイダンス② 前期復習、後期ガイダンス、ストレッチ、トレーニング
2	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックA
3	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックB
4	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックC
5	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックD
6	パフォーマンスチェック ストレッチ、トレーニング、個人曲パフォーマンスチェックE
7	課題曲④ 課題曲(今までの総合、手の動き集中)※体幹を使ってブレないように
8	課題曲⑤ 課題曲(足の動き集中)※体幹使ってブレないように
9	課題曲⑥ 課題曲(表現力集中)
10	課題曲⑦ 課題曲(全体)
11	課題曲⑧ 課題曲発表
12	自由曲③ 総合トレーニング1、自由曲
13	自由曲④ 総合トレーニング2、自由曲
14	自由曲⑤ 総合トレーニング3、自由曲
15	まとめ 一年まとめ、トレーニング、総評

授業科目		授業時数
音楽理論Ⅱ		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
大野 正人 プロミュージシャンとして長年活動している経験から単なる知識の理論だけでなく、歌唱や創作に向けた実践的な活用法を教授		
前期		
到達目標		
楽譜作成(バンドスコア、リードシート作成)		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	4声ダイアトニックコード(その1)	1年次に習得している各KEYにおけるDiatonicChordを、もう一度書き並べチェックしていきます。Vocalであれば、各譜面にあるコード進行を自分の唄うKEYに調整し直す方法も理解していきます。
2	4声ダイアトニックコード(その2)	各DiatonicChordのファンクション(機能)を理解して3コードへの代理を理解します。
3	リズムトレーニング①	目の前で叩くシンコペーションしない1小節内の16分音符の聴き取り、譜面上にも表していく。また、示された16分音符を自分自身が叩いてリズム出しも行う。
4	リズムトレーニング②	目の前で叩くシンコペーションしない2小節内の16分音符の聴き取り、譜面として表す。それを自分なりに叩いてリズム取りを行う。また、楽曲の中のいろんな楽器が演奏する音符を書き取ってみる。
5	リズムトレーニング③	目の前で叩くシンコペーションしない1~2小節の3連符の聴き取り。自分で3連符を両手を使って叩く。左右反転を繰り返すことを理解する。
6	分数コード(転回形)	コードの1stの音をベースとする元々のコード以外に、3rdや5thの音がベースに来る内容を理解する。
7	分数コード(ストラクチャー)	sus4やテンション等をトライアード等にまとめて表現する方法を勉強する。Bass音(I)の上にb VII△やII△、またはVII△が表現される場合のサウンドカラーを知る。
8	ドミナントコードのテンション(natural)	V7上に現れるナチュラルテンションの表記とサウンドを理解します。9th、(#11)、13th
9	ドミナントコードのテンション(altered)	V7上に現れるオルタードテンションの表記とサウンドを理解します。b 9th、#9th、(b 5th)、b 13th(#5th)
10	ブルーノートについて	Major Keyにおいて、同主調マイナーに現れるb 3の音を歌で表現していく。具体的には、ブルーノートという表現になる。
11	ブルースペナトニックとメジャーペナトニック	Major Keyにおいて、マイナーのペナトニックが同軸音に重ねることができる仕組みを理解する。
12	メロディーの聴き取り(その1)	オリジナルメロディ8小節を繰り返し演奏。そのリズム譜を楽譜に書き表すようにしていく。
13	メロディーの聴き取り(その2)	オリジナルメロディ8小節のリズム譜に対して、音の高さを確認していく。自分が使用しやすい楽器を選んで進めて行くようにする。
14	前期授業のまとめと、試験問題の出題傾向	DiatonicChord、リズム譜、コードの表し方、ブルーノートの扱いについて復習する。
15	前期試験	
16	試験問題の解答と解説	再度、前期1~13までの授業内容を確認していく。

授業の方法		
講義・演習・実験・実技・実習		
授業概要		
基礎的な理論を理解した上で、楽曲の構成や構造を理解していきます。より優れた個性ある演奏に繋げるため、各楽器レベルでの消化に役立っていきます。前期には自分の中の音楽を具体化するための方法としてスコアライティングを学びます。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:		
後期		
到達目標		
音楽的感覚養成(セオリーとフィーリングの一致、相対音感の習得)		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	リズムトレーニング(その1) 8分シンコペーション	拍を跨ぐシンコペーションを理解していく。しっかりと1.2.3.4拍を意識できるように練習、小節を跨ぐようなものも理解していく。
2	リズムトレーニング(その2) 16分シンコペーション	16分音符を中心に拍を跨ぐものを勉強していく。シンコペーションとなる符割をしっかりと口で発声できるようにしたい。
3	マイナーキーの講義(その1)	マイナーダイアトニックコードを表し、スケールの音を調整してドミナントモーションになるポイントを学ぶ。
4	マイナーキーの講義(その2)	一般に聴くことができるマイナー楽曲を聴いて貰い、ハーモニックマイナーやそのダイアトニックの成り立ちをして理解していく。
5	メロディーの聴き取り(その3)	オリジナルメロディ4小節を聞いて、そのリズム譜をしっかりと楽譜に表せるよう繰り返し行う。
6	メロディーの聴き取り(その4)	オリジナルメロディ全体を聞いて、リズムや音の高さを確認していく。自分が使用しやすい楽器を選んでCOPYするかたちを理解していく。
7	リズムの聴き取り(その4) 様々なビートで	3連系のリズムの聴き取りを行い、2拍3連等の仕組み等も勉強していく。
8	リズムの聴き取り(その5) 跳ねているビートや3/4拍子、または、変拍子(5拍子Take Five等)曲、または、一般的なビートを使用する楽曲に入っている1~2小節程度の変更される拍子記号等の例を学ぶ。	
9	リハーモナイズ(その1)	3コードの繰り返しに対して、ハミングや鼻唄レベルでメロディを自分なりに創作していく。簡単でもいいのでも、思い浮かぶものを譜面にする。
10	リハーモナイズ(その2)	1つのコードまたは、2つのコードの繰り返しでメロディを作成してみる。これも譜面に書いてみる。
11	リハーモナイズ(その3)	8小節の循環コードに対して自分なりのオリジナルメロディを作成。楽器で音程を探りながらリズムも考え、譜面にまとめてみる。
12	メロディーの聴き取り(その5)	誰でも知っている曲を、リズムを聴き取りながら、個々の楽器を使い音の高さも聴き取りながら譜面に表す。また、その曲のKeyの導き出し方を勉強します。
13	後期授業のまとめと、試験問題の出題傾向	シンコペーションが混在するリズム、マイナーキーのダイアトニックや進行、メロディの聴き取り、簡単なメロディの作曲を復習する。
14	後期試験	
15	試験問題の解答と解説	再度、後期1~12までの授業内容を確認していく。

授業科目		授業時数
ソングライティング		62
学年	学科	専攻
2	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
水上 啓 楽曲制作をPCのみで完結するノウハウを豊富に持つクリエイターとしての経験から、パソコンを使った音楽制作の方法を学生に指導していく。		

前期	
到達目標	
DAWソフト「Cubase」の応用力 打ち込みの精度 / 打ち込みの入力速度 各調整の応用力 / Cubaseの理解度(操作)	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1	ガイダンス	授業内容についての解説を行い、DAWソフトウェア、パソコンの基本概要と使用方法について学びます。	
2	Cubaseの基本操作①	プロジェクトの新規作成、保存、終了、トランスポートパネル、インストゥルメントトラックの作成、ドラムエディタ入力の基本を勉強します。	
3	Cubaseの基本操作②	トランスポートパネルのショートカット、クオンタイズ、スナップとグリッドの設定、ペロシティの操作を学びます。	
4	Cubaseの基本操作③	ミュート、ソロ、音量設定、タイミングの微調整、フラム、ラフの表現を理解していきます。	
5	Cubaseの基本操作④	ゴーストノートの表現を学びます。	
6	MIDIの打ち込み②	パーカッション等の打ち込みを行い、グルーブ感を表現したいという感性や感覚を生み出してもらえるようにします。	
7	MIDIの打ち込み③	基本的な8ビートのベースラインの打ち込みを行います。	
8	MIDIの打ち込み④	少しスムーズなライン取りをしているベースラインの打ち込みを行います。	
9	MIDIの打ち込み⑤	サイドギターの打ち込みに挑戦します。	
10	MIDIの打ち込み⑥	ギターの打ち込み表現は他の楽器に比べて難しい内容になることも理解して貰います。	
11	MIDIの打ち込み⑦	ハーモニーを堅実に捉えたキーボードの打ち込みを行い、バックグラウンドに豊さを求めます。	
12	MIDIの打ち込み⑧	リズムに動きがあるキーボードを打ち込みます。	
13	MIDIの打ち込み⑨	メロディパートの打ち込みとして、オリジナル楽曲のプリプロ制作を行います。	
14	MIDIの打ち込み⑩	先週に続けて、オリジナル楽曲のプリプロ制作を行い、3週で作品提出になります。	
15	試験	前期試験 作品提出	
16	FOLLOW	前期試験内容から得られる振り返りを行います。	

授業の方法	
講義・演習・実験・実技・実習	
授業概要	
様々なジャンルの楽曲のコード理論、進行、メロディ及び歌詞の構成などを分析、研究、理解し、オリジナル楽曲の作成に対する様々なアプローチを学び、完成させていきます。 <実務経験のある教員等による授業科目>	
使用教材:	

後期	
到達目標	
DAWソフト「Cubase」の応用力 エフェクト使用のノウハウ / オーディオデータ編集についての知識 マスタリング知識 / 打ち込みの入力速度 Cubaseの理解度(操作)	

評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト・その他	

授業計画		授業項目	実施内容
1	プリプロ制作①	前期に作成したオリジナルメロディ1を考察、次のオリジナル曲の構想を練っていきます。※オリジナル楽曲のプリプロ制作	
2	プリプロ制作②	オリジナルメロディ2を作成、オリジナル楽曲のプリプロを行います。	
3	プリプロ制作③	オリジナルメロディ2に簡単なダイアトニックコードを使いコード進行をつけていきます。 ※オリジナル楽曲のプリプロ制作	
4	ベースのニュアンス	オリジナルメロディ2に対してベースラインを付けていきます。メロディと共に動く重要な要素なので、その表現に集中しましょう。	
5	ギターのニュアンス②	続いてギターバックキング[アレンジ1]を入れていきます。	
6	ギターのニュアンス③	ギターバックキング[アレンジ2]、あればリードパートを入れていきます。	
7	キーボードのニュアンス	キーボードのニュアンスによって広がりが見えます。	
8	オーディオ①	各入力された楽器類を相互関係を考えて編集していく作業(オーディオレコーディング)を行います。	
9	オーディオ②	各楽器音色に関して音量/音色/定位等を考えて波形編集を行っていきます。	
10	オーディオ③	↓	
11	エフェクター①	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(リバーブ)を行い、理解を深めていきます。	
12	エフェクター②	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(ディレイ)を行い、理解を深めていきます。	
13	エフェクター③	オリジナルメロディ2にアレンジされて入力された各音源を使用してエフェクト設定(EQ)を行い、理解を深めていきます。	
14	試験	後期試験 作品提出	
15	まとめ	総括としてオリジナル音源のCD化	